



しらす



▲十三地区



▲十三地区



▲十三地区



▲相内地区



▲相内地区

夏祭りを満喫

8月15日に「ふるさと市浦会」終了後、相内地区と十三地区で行われた盆踊り大会の様子です。

市浦村では人口の減少に伴って祭りの参加者は年々減少しており、特に近年、相内地区の盆踊り参加者はほとんどなかったのが現状でしたが、今年はふるさと市浦会出席のために地元へ帰省した関東出身者の参加によって久々の賑わいをみせていました。

ふるさと
の良さを再認識

第三回 関東地区 「ふるさと市浦会」交流会

八月十五日、村内コミュニティーセンターで第三回関東地区「ふるさと市浦会」交流会が行われました。当日は村内から九十六名、関東地区周辺から六十八名、合計百八十二名の参加者が集まり、地元と市浦会の交流や、意見の交換が行われました。



▲会場全体が一つの輪になった虫送り

今年 は 地元 での開催



▲あいさつをする葛西会長

平成七年に市浦村と関東地区周辺に在住する市浦村出身者の交流や意見交換をする場として発足した関東地区「ふるさと市浦会」これまで平成七年、八年と二年連続東京品川プリンスホテルにて行われてきましたが、今年にて行われてきました。今年度は「今後交流会を三年サイクルで考え、三年に一度は地元で開催したい」との意見があり、今回は関東地区在住の市浦会会員の方を招いて地元で開催することになりました。

交流会ではまず工藤助役が「ただ単に友好を深めるだけではなく、ふるさと市浦会を通じてみなさんから意見を頂いて、より良い村づくりを目指していきたい」とあいさつし、続いて葛西孝市浦会会長（地元地区出身、埼玉県在住）が「久々に市浦に帰ってきて感動しています。これからも村の発展に協力していきたい。」とあいさつ。浜田春士村議会議長の乾杯によつて交流会が始まりました。

久々の再会に 喜びの声

乾杯が行われた後は東日流衆による和太鼓の演奏が行われ、演奏の途中で虫送りの祭り囃子へと変化する趣向に会場内では懐かしさにおもわず踊り出す人も登場。交流会にふさわしいスタイルとなりました。

今回は地元での開催とあってこれまで仕事の都合などで東京へ参加できなかった村内在住の



方、あるいは地元を離れた後、何年も機会がなかったために市浦へ帰る事ができなかった人も多く、中には約二十年地元に戻ったことがないという方もいたほど。

会場のあちこちでは当時のアゲ名で呼び合う同級生、兄弟・親戚の懐かしい話に盛り上がる昔のお隣同士など、会場内は笑い声が絶えませんでした。また抽選によるプレゼントコーナーも大盛況でした。

▶婦人会のみなさんによる芸能発表



カラオケタイム は対抗戦形式

アトラクションに市浦会側の代表五名と市浦村側の代表五名によるカラオケの対抗戦が行われ、市浦村側からは工藤助役も出場しました。市浦会側も市浦村側も出場者はいずれも実力派揃い、ほぼ五角の戦いでしたが、結果は二百七十四対二百七十八の僅差で市浦村側が勝利しました。

その後も婦人会のみなさんによる芸能発表や、会場が一体となつて踊った「相内の太刀振り」や「しらふ音頭」で会場の盛り上がりはピークに達し、閉会と



▲カラオケに出場した市浦会チーム



▲工藤助役の熱唱



▲カラオケに出場した市浦村チーム

なりました。また参加者は引き続き相内地区と十三地区で行われた盆踊り大会へ参加し、久々に地元元の夏祭りを楽しんでいました。

市浦会に 参加してみて



清水石京子さん
(脇元地区出身)



奈良儀一郎さん
(太田地区出身)



成田 敏明さん
(磯松地区出身)

クラスのみんなが集まって、楽しい時間が過ごせました。次回のおしらふ会でも盛り上がりた

い。
今回初めて参加しましたが、活気があってとても楽しかった。また会場内で懐かしい顔に会えることができて嬉しかったです。

十四年ぶりに市浦に帰ってきたのだが、ほんとうによかった。これからもできるだけ協力したいし、みんなでも市浦を盛り上げていきたい。

— 地方新時代の行政サービスとは —

欧州の行政に学ぶもの①

村長 高松 隆三

輸出が停滞し、経済成長が止まり、ゼネコンや銀行が倒産し、そして出生率が下がり、おどろくべき早さで若者の国から老人の国へと様変わりしている日本。

その日本という太陽がどこからも昇り続けることができるだろうか。日本の時代は終わったのではない。いや既に日本の衰退が始まっている。いま二十一世紀を目前にして日本をめぐる論議が、かまびすしいが、こうした中で、これからの地域経営の課題である「福祉と環境と農村の活性化(グリーンツーリズム)」をどうするか、この問題に関する町村長とともに、デンマーク、ノルウェー、ドイツ、スイスなど四ヶ国の行政事情を視察して来たので、その概要を旅行記ふうによつて報告



▲鉢物が主流の花市場にて

に代えたいと思います。

私にとって欧州は八年振りの訪問であります。この間ベルリンの壁の崩壊、ソ連邦の解体、ユーゴの内戦、湾岸戦争などおよそ平成の名にふさわしくない激動の歴史に揺さぶられ、そして両ドイツの統一や、E.U.ヨーロッパ統合が動き出すなど、つかしくもあり、興味深くもあつた旅であつた。

～ 欧州行政視察団名簿 ～

氏名	氏名	町村名	町村名
賀 貴	盛 隆	木造町	木造町
隆三	高松	市浦村	市浦村
敬義	平沢	深浦町	深浦町
真人	小山	岩崎村	岩崎村
英	古坂	柏村	柏村
慶藏	三上	西目屋村	西目屋村
善成	石澤	常盤村	常盤村
豊	吉田	六戸町	六戸町
直	清木	村長	村長
真	小松田	会長	会長
大	原子	村長	村長

デンマークには
原発は一基もない

六月二十六日 小雨

成田発コペンハーゲン行きの直行便は、ハバロフスク上空のフライト許可がとれないため機

国内旅行と同じようて緊張感はなかった。
デンマークの通貨は八年前に一クローネ二十一円だったが、今回は十八円ということ。日本円がさらに高くなっていることに意を強くした次第である。

内三十分も閉じ込められたが、日本海を北上し、モスクワの北側を通過し、バルト海を経て六月二十七日十六時二十分(現地時間)ヨーロッパ六番目の交通量を誇る、北欧の玄関口コペンハーゲン空港に到着した。実質十一時間のフライトで少し疲れたが、それでも八年前にはアンカレッジを経由したので約二十時間もかかったことを思えば、九時間も短縮されたことになり、世界は一段と狭くなったように思えた。入国手続きは相変わらず簡単に通関も素通り同然であり、

わが国では地方分権や道州制や行政改革が叫ばれているが、デンマークは九州と同じくらい面積に人口は五百二十万人という小さな島国であり、山がないので風力発電が盛んであり、原発が一基もないことを誇りにしているが、人口一億二千万人の日本と、五百二十万人のデンマークとは電力消費量が格段に差があるので原発がなくとも電力が間にあうのかも知れないと思つた。

農業の国から
工業の国へ

コペンハーゲン国際空港は、市街地まで約10kmと比較的近いところにあるが、空港を出た途端工事ラッシュに出会ったがデンマークは八年前と違って活気があり、変わりつつあるというのが私の第一印象だった。

小国デンマークにとっては、E.U.統合は避けて通れない問題であり、いまその統合にむけてドイツ、フランス、イギリス、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドなどが海底トンネルや海峡大橋や道路などで繋ぎ、一つの共同体にしようとして、高速道路なども一部ストップさせて建設工事が進められて居り、国内総生産(GDP)に占める農業の割合も僅か5%と低く、コンピュータや情報産業などを中心とした工業国に転進して居り、デンマークという農業の国という私のイメージは時代遅

れたと解ったが、しかし島国で
あるという点で、農業の母から
工業の国に変わったというところ
、それと同じ王室をもつ国だとい
うこと、これは日本も現状と
よく似て、語り私は好感をもて
る国の一つでもある。

六月二十七日 雨

デンマークでも今年冷害
だろうと、今日も朝から雨、氣
温は十度と肌寒い日だった。
今日はビドロー市のゴミ処理
施設へ行く前にコペンハーゲン
の郊外にある農産物市場に立寄
ることとした。

十七万坪という広大な市場の
中にあるこの花市場は欧州最
大の市場であるオランダの唯一
のライバルといわれ、居り、大
規模な鉢物生産者が多数を占め
ている市場である。
その鉢物は、人工衛星を利用
した位置測定システムを搭載し
たトラックで欧州各地に輸出さ
れはいるそうである。この市場で
は相対取引が中心であり、販売先
もオランダと重複しているの
で、ライバルのオランダの「せり値」
というところで、活気を見し
ていた。

本県でも花き振興を、農政の
新しい柱にするため昨年八月に

「フラワーセンター21あおもり」
をオープンさせるが、産地間競
争の激化に対応するため、この
ほど新聞発品目ないち早く生産
現場に普及させたいとを目的に
、普及技術部を新設し研究職員を
八名も増員したが、気象条件が
類似する北海道、北東北との競
合が避けられないと思ふので産
地形成とともに販売対策につ
いてもひと工夫する必要がある
と思う。

ゴミ処理は広域で 産廃も同時処理

デンマークでは、①ゴミの減
量化 ②リサイクル化、③再エ
ネルギー化ほかに、④デボン
ット(畜死畜 制も含め、四本
の柱をゴミ処理の基本指針と定
めている。その中で、リサイクルは最
優先課題と、二、〇〇〇年ま
でははすべてのゴミの五十四％
をリサイクルする方針であり、
特に家庭や工場から出るゴミは
リサイクルに適したものが多く、
鉄や他の金属片、ガラス、プラ
スチック、紙、木の板などはリ
サイクルの前段階で細かくカッ
トされることになるので、分別
の徹底を図ることとし、別表の
ように十六施設に分別すること
を義務づけている。

五十万人の市民と四万五千ヶ
所の大小、小企業から持ち込
まれるゴミは年間三千万五千
トンにも達し、キチンと分別し
て自分でリサイクルングステ
ーションに搬入する場合は、無料
となり、市が搬入すれば、世帯
年平均約三万三千円の運搬料が
徴収されることになって居り、
処理経費は税金で賄うと言つて
いる。

またリサイクルングステーション
には常にスタッフがついて約
二十五ヶのコンテナには、シン
ボルマークや説明によりどのコ
ンテナにどのゴミを入れるのか
すぐわかるようになっている。
生ゴミについてはコンポストを
奨め、極力自然に還元するよう
指導していることである。
ゴミ処理は市単独では限界が
あるので、ビドロー市にある施
設は五つの市が共同で処理して
居り、ここでは一般廃棄物も産
業廃棄物も同時に処理している
が、産廃処理に住民の反対はな
いと質問したら、ケルマも、
テレビも、冷蔵庫も、自分達が
快適な暮らしをするために購入
したものであり、それを廃棄す
る場合安全に処理することは当
りまえのことではないかという
返事が返つて来た。
また施設は海岸につくつてい

るが、漁業者の反対はなかった
かと聞いたら、デンマークでは
漁業者には漁業権をあたえてい
ないのてそうした問題はおこら
ないとも云つて居り、産廃に対
する考え方も日本と欧州とは
随分違うなあと思つた。
いまわが国でもダイオキシン
対策で苦慮して居り、焼却炉は
二十四時間フル稼働するような
システムでないし厚生省は新規
の焼却施設は認可しないと言つ
ているが、これから施設をつく
ろうとしているわが村では、焼

別表 ゴミ分別の種類

1	新聞雑誌 (電話帳は除く)	9	金属製品 (大) 洗たく機、血洗機、 オーブン、 洗濯機、 掃除機、 自転車など
2	可燃ゴミ (大) (家具など)	10	金属製品 (小) やかん、アイロン など
3	可燃ゴミ (小) (小さな家具、電話帳など)	11	事業所の紙ゴミ、コピー、 その他メモ用紙
4	リサイクル用プラスチック	12	マットレス、カーペット ③スタッフの許可が必要
5	プラスチック、 ポリ塩化ビニール製品	13	油、薬品類 (10ℓまで) ③スタッフの許可が必要
6	アスベスト、繊維入りセメント (100kgまで)	14	厚紙、ボール紙
7	空きビン、ガラス製品	15	石、タイル、コンクリート
8	木の枝、葉、草花 (肥料にできるもの)	16	衣類、靴

て報告します。

と云う。

。

NEWSフラッシュ

市 浦勢大健闘で総合九位 第五十二回県民体育大会

八月十六日、十七日、二十三日、二十四日の四日間に渡って第五十二回市町村対抗県民体育大会が八戸市を主会場に開催されました。市浦村選手団のおもな記録は次のようになっていま

・陸上競技

男子 一〇〇m
優勝 梶浦 武也

男子砲丸投げ

第二位 戸 俊一

男子 一五〇〇m

第六位 齋藤 公伸

・軟式野球競技

準決勝 市浦 二一 田舎館

決勝 市浦 二一 小泊

（規定により両チーム優勝、十四年ぶり二回目の優勝）

・バドミントン競技

団体戦 第三位

・ボウリング競技

個人戦

第一位 新潟 寿行
第二位



▲総合優勝を果たしたボウリングチーム

総合 優勝
・サッカー競技 第三位
○総合成績 村の部 第九位
（昨年十二位）

なお、昨年の大会で村の部、男子一〇〇mで五年連続優勝した梶浦武也さんが表彰され、今年も優勝したことにより六年連続優勝となりました。今回の受賞について梶浦さんは「今後も優勝を重ね、十連覇をめざしていきたい。またメンバーが揃えばリレーにも出場してみたい」と語っていました。

発

発掘調査を支えるお母さんたち

市浦村連合婦人会

市浦村では県教育委員会と合同で発掘調査を進めており、この数年は富山大学から学生を招いての発掘調査も行われてきました。その結果家臣団屋敷跡など多くの発見がされてきました

が、今年はそんな「多忙な学生さん初めの手伝いをしたい」と今年初めての試みで市浦村連合婦人会の皆さんがボランティア活動として朝食と夕食の準備を担当しました。四十八分の食事を毎日三、四人交代で作るため、朝食は朝五時半から準備がされているとのこと。食事をすることに關してはベテランの主婦揃い。本来のこんだて以外にも自分の畑などで取れた野菜を持ち寄って作るなどボリュームも満点で、そんな手作りの料理は学生にも「お

ふくろの味が楽しめる」と大好評でした。

市浦村連合婦人会会長の齋藤恵美子さんの「せっかく市浦に来たのだから、未来の考古学者のために市浦の美味しいものをたくさん食べて貰ってほしい。四十人分の食事を作るのは大変ですが、自分の子どもにご飯を食べてもらうような感覚で作っています。学生さんの

「ごちそうさま、美味しかったです」の一言がなにより嬉しい」と話す姿は実の子を思う母親そのものでした。



▲学生さんにも大好評

ホ

ホームラン一発五百円!?

市浦郵便局長杯野球大会

八月十日、山村広場野球場において「第九回市浦郵便局長杯野球大会」が開かれました。この大会は市浦村夕焼け野球協会に登録されているチームが参加対象となっており、ホームランを打つと五百円、三振・エラーをすると二百円を寄付するチャリティ募金する特別ルールが設定されました。

特別募金ルールが設定されているため参加選手はいつも以上に真剣。それでも三振・エラーが続出し、ホームランも飛び出したおかげで合計一万二千二百円の募金が集まり、集まった募金は市浦村社会福祉協議会に寄

付されました。

なお試合の結果は次のとおりです。

- 一位 商工会青年部
- 二位 スニーカードラゴンズ
- 三位 J.A市浦



▲婦人会の皆さん



▲デッドボールの瞬間

交通死亡事故ゼロへ向けて再スタート

交通安全三つの誓い署名運動

去る七月三十一日、十三地区で発生した交通事故を重く見た金木警察署と市浦村を含む金木警察署管内の町村では七月三十一日から八月三十一日までの一ヶ月間、交通死亡事故抑止非常警報を発令して行っています。

非常警報発令期間中に事故撲滅を目指して市浦村交通安全対策の会、市浦村連合婦人会、村内各保育所母の会が中心となり、村内の運転免許所有者へ「一、飲酒運転の追放 二、車両のスピードダウン 三、シートベルト着用」を呼びかける「交通安全三つの誓い署名運動」が行われました。この運動により千四



▲高松村長へ署名を提出する
小山さん(右)

百三十六名の署名が集まり、八月十一日市浦村交通安全対策協議会会長である高松村長へ、八月十八日は金木警察署長へ署名の提出式が行われました。市浦村交通安全対策協議会では「非常事態宣言」として一ヶ月間運動してきましたが、期間終了後も交通死亡事故ゼロを目指して気を緩めずとなく活動していきたい」と語っていました。

伝 統を今に伝える

郷土芸能講習会

市浦村に伝わる貴重な伝統芸能の伝承を図ることを目的として、八月四日から六日まで十三公民館にて「十三の砂山踊り」講習会。八月七日から九日まで若幹集落センターにて「相内の坊様踊りの歌と踊り方」講習会が行われました。

これらの講習会は今年初めての試みでしたが、当日は「地元」の伝統を大切にしていきたい」と願う方々の参加があり、地域の大先輩から次の世代を担う子どもたちへ熱心に指導する姿がありました。

今後「郷土芸能講習会」を

日 頃の活動が評価される

金木地区防犯指導隊市浦支隊

平成八年に隊員を一新して、新たにスタートした金木地区防犯指導隊市浦支隊はこれまでに月に一回のペース、及び年末年始、村内で事件があったときなどにボランティア活動として村内を巡視、指導してきました。

この度それらの地域安全活動を積極的に行ったことが評価され、市浦支隊長である成田武司さんが金木地区防犯協会と金木警察署長から表彰されました。



成田さんは「今回は個人として表彰を受けましたが、隊員みんなの協力あつてのもの。これから

コ ミュニティ助成事業で

テントを購入

▶パトロールご苦労様です

市浦村子ども育成連合会では、自然体験学習等によって児童生徒の健全な育成と福祉の増進を図ることを目的として、平成九年度コミュニティ助成事業で以下のものを購入しました。

- ドーム型テント 7張
- 寝袋 50ヶ
- 小型テント 2張
- キャンブスタンド 2ヶ
- ランタン 7ヶ

今後は「ジュニアリーダー研修会」など主に児童生徒を対象とした野外学習の場でも有効活用



される予定です。



▶防犯指導隊のみならず

からもみんなが安心して暮らせる村をめざしていきたい」と今後抱負を述べていました。

決意を新たに大人の仲間入り

平成九年度 成人式

「郷土に拓くわれらの未来」をテーマに、八月十四日市浦村コミュニティセンターにて成

人式が行われました。今年度の成人式は昭和五十一年四月二日から昭和五十二年四月



▲出席した新成人たち

一日までに生まれ方五十一名が対象となっており、二十六名が出席しました。

式では、木村教育長が「みなさんの強烈なエネルギーをふるさと市浦のために燃やし続けてください」とともに、常に一人の若者としての自覚の上に立ち、成長されることを願います」と式辞を述べ、「人口の減少によって村は小さくなくても元気な村づくりをめざすためにみなさんのご協力をいただきたい」と工藤助役による祝辞の後、新成人を代表して木村津太さん(磯松



誓いの言葉

木村 津太



これまででは未成年ということでは、甘えも許され、たくさんの方々に支られ助けられました。しかし、これから一人前の社会の構成員として認められるよう生き抜く力としての教養を身につけた主体性の

地区」が誓いのことを述べました。

式典終了後は市浦村の学芸員として十三湊の発掘調査に携わっている榎原浩高さんによる「私と市浦と十三湊」をテーマに記念講演が行われました。新成人たちは講師による学生時代の体験や、愛知県から青森県に学芸員として就職することになった経緯を交えながらの講演に市浦村の魅力を再確認していました。引き続き行われた祝賀会では、

ある一人の人間として自己形成していかねばなりません。日々学ぶという姿勢を忘れず、目指す人間像に到達すべく努力していかうと決意しております。近年この生まれ育つ市浦村も、同世代の若者が数えるほどとなり、少し寂しい現状となっておりますが、豊富な自然と誇り高い歴史、そして温かい人情あふれるこの郷土を私たちは愛してやみません。

これまで市浦村の発展を支えてくださった人生の先輩に対しての感謝を忘れず「ゆとりと風格のある村づくり」を目指すお手伝いができるよう一生懸命努力したいと思います。



解禁となったビルで乾杯の後地元在住者をはじめ、お盆で帰省中の仲間と共に久しぶりの再会を喜び合いました。新社会人としての決意を新たにしました。

▲再会を祝して2ショット

海外体験航海 ~B&G「少年の船」に 参加して~

少年の船の思い出

一戸 智行(相内)

僕は、最初不安もあって自分でもあまり乗り気ではありませんでしたが、初めて乗った飛行機は、座席が真中で景色が見えなくて残念でした。

東京に着いてからタクシーに乗って東京タワーに連れてってもらいました。初めて見る東京タワーからのながめは、とてもいい景色でした。

教育委員会の葛西さんとB&Gホテルで別れてから、一人でだいたいよぶだろうか、友達はあるのだろうか、心配でした。でも心のやさしい友達がたくさんできました。ゲームでは、海でワインディングラインをしたら、強い風が来

ブルーシー・アンド・グリーン財団(B&G財団)では、団体生活を通して連帯・協調の大切さを学習し、友情を深めることを目的として一九七六年より海外体験航海事業を行ってまいりました。今年で二十回目となる「少年の船」は七月十八日から八月五日までの九日間行われ、市浦村から参加した一戸智行くん(相内)と松橋征嵩くん(磯松)が参加しました。

て落ちてしまい、足も切りきずをつとつてしまいました。でも、血は出てるのですが、全然くたくありません。それくらい夢中になったワインディングラインでした。

サイパンは、海に入ると、くだけたサンゴがとてもなく、たまりません。海には、何十匹ものなまこがいて、水上ドッチボールの最中に敵になまこをなげていた人たちがいました。

みんなで心をつなげてがんばった運動会は、おしとくも四位になってしまいました。綱引きや玉入れは、一位をとったのですが応援合戦で失敗してしまいました。残念だ、ただ楽しい運動会でした。

ととうと皆と別れる時です。ふじ丸とお別れです。できればずっとふじ丸に乗っていたかったです。船から降りて迎えるのを見たら、友達はいまません。最初来た時は、九日間もあるのか、と思っていたけど終わったら、

九日がすごく短く感じられました。バスポートに押してもらい出口から出たら、葛西さんが迎えに来ていました。帰りに羽田まで来て、お昼にした天ぷらうどんがとてもおいしくて、その味は忘れませんでした。この九日間のことを忘れないうようにしたいです。



▶一戸智行くん

楽しかった 八泊九日の旅

松橋 征嵩(磯松)

B&G「少年の船」に参加しました。東京に着き、受け付けをすましたのはよかったです。が、周りの人みんなが知らない人ばかりなので、硬直しています。オリエンテーションが終

わり「ほつ」とする間もなく、すぐバスで成田近郊ホテルへ行きました。同じ部屋の川口君と石井君と吉野君と話をしたりトランプしたりしてやて友達になれて少し気が楽になりました。でもまだ三人しか友達できて

ないわけて次の日になってみるとうちよつと不安でした。不安なまま、ゲーム中で飛行機で行きました。飛行機の中で、耳なりがすごくて、最悪でした。

しかし、ついに念願のゲームに着いてつともうれしかったです。七月三十日、はくが特に楽しみにしていたマリンスポーツです。そのスポーツをする前にバディ(パートナー)を決めなくてはならぬかなか気はすかしかったです。それでもドラゴンポートやローポートなのがつとも楽しくてよかったです。

そして、八月二日から、日本に向けて、出発しました。その夜、スポーツデッキで星座教室を行いました。とてもいいので、持って帰りたいくらいでした。それに流れ星がたくさん見れて最高でした。

十一組の一部の人は朝四時に起きてベランダに出てみんな楽しんで遊んでいます。そして船です。すず日はほとんどこの日、八月四日だけです。

午後から洋上運動会がスポーツデッキでありました。応援合戦がありました。ダンスをおどる所があれば、劇をやる所があったり、歌を歌う所があったりしてとても見ごたえがあって楽しかったです。ほくたち、十一組は結果的にほとんど最下位と変わらなくらいおもしろい下の方でした。

そして最後のパーティー、サヨナラパーティーでは、リーダいやみんなの話を聞いて、もうみんなとあえないかもしれないと思っていたら涙がでてきて泣いてしまいました。

八月五日の日にはみんなでコーラをかけたまくつてはしゃいでいました。

今回の海外体験航海第二十四回B&G「少年の船」の思い出は、ほくの一生の宝物です。できることならばまたみんなと再会したいです。



▲松橋征嵩くん(前列右)

四国民舞輪の会と 交流深める — 当村から17名参加 —



▲交流会のオープニングでは「しゅうら音頭」で歓迎

四 国民舞輪の会（宮川和扇（会主））の交流研修会が、八月二十三日、二十四日の両日愛媛県ホテル奥道後後に三百八名の会員と、当村からは十七名が参加して開かれました。

四国民舞輪の会と当村との交流は、平成三年「しゅうら音頭」を制作した際、会主である宮川和扇先生に際り、付けをお願したことからはじまりました。

「しゅうら音頭」をきっかけに始まった交流事業ですが、宮川先生をはじめ会員の皆さんには「シジミドリントク」や「エキヌ味噌」「ヒバ材「木工品」など、当村の特産品の販路拡大にも協力していただいています。

輪の会では昨年十月、当村が



▲花束を受けた山田収入役右

開催した「しゅうら音頭制作五周年記念芸能フェスティバル」には、宮川先生を先頭に六十名の会員が参加し、盛大に芸能交流を繰り広げたところです。

村では、第二十九回目を迎える民舞輪の会の交流研修会に参加させようと、婦人会や芸能団体を中心に募集、山田勝明収入



▲交流の輪が広がりました

役外十六名が参加しました。

交流会では宮川先生を先頭に会員らの心のこもったおもてなしを輪の会が、オープニングでは輪の会会員と伊南善仁さんが「しゅうら音頭」の唄と踊りで大歓迎、厳肅な中にも和やかな交流会となりました。

芸能交流では、当村から「十三の砂山」や「津軽あい節」などの踊りが披露され、会場の雰囲気も最高潮に達し、時のすぎゆくまま楽しくほのほとした輪（和）が広がっていました。

今回参加した人たちは、宮川先生を先頭に「輪の会が強いはずなで結ばれている感じを受けた」「輪の会のパワーに圧倒されたが、今後も交流を続けたい」「輪の会と交流が出来たことに感激している」「こんなに充実した研修旅行は初めてだ」など、生涯に残る旅になったと喜んでいました。



友好町村だより 16
かみのくに
情報ランド

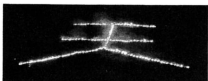
天を焦がす神火は、大地の民を暖かく包む。
「エゾ地の火まつり」にどっと八千人

わが町最大のイベント「エゾ地の火まつり」が七月二十七日に夷王山特設会場で、八月十五日には天の川ふれあい広場を会場に行われ、この二日間で帰省客など約八千人の観客が詰めかけ、短い北国の夏のひとつときを楽しみました。

七月二十七日は海の神「龍神」が山の女神に恋をして、年に一度龍燈となつて逢いにくるという伝説を巨大な火文字で再現する火まつりが始まり、龍燈太鼓を合図に天の火文字が浮かび上がる、見守る観客たちから大きな拍手と歓声がわき起こりました。

エゾ地の火まつり第二段は、八月十五日に天の川ふれあい広場特設会場で行われました。

日本海、いまつ明かじでは、白装束を身にまとった若者が七・五メートルから九メートルの柱大に



後之年の歌

75

後之年の歌

(10)

時秋、供を請う

兄義家を助けようとして決心した三郎義光は、朝廷から後はど罰せられることを覚悟を以て大内(朝廷)の宿衛を脱出します。そして、新羅明神の宝前に戦艦の祈願を捧げます。それは義光が元服した神主だったからです。現滋賀県大津市三井寺の鎮守神、審神または素戔鳴尊といわれます。新羅三郎義光の名乗りをして、所以です。

さて、前回「前太平記」所収の挿図で、義光が神官の方を向かないで、右方を向いているのを思議に思った読者がいらっしやると思います。実は



▲義光の揮筆を善家(前太平記)所収

従者二人を併せて馬の上の公卿が息せき切って馳せて来たので。さては白河上皇が私を罪しようとお使いであろうと、胸騒ぎを覚えながら急いで対面したのでした。だが、その人物は宮中に勤務する豊原時秋という寮士でありました。そして義光の供に加えてくれるようにせがむのでした。義光は「この度の奥州下向は院の許可を得ないで振舞いなのだ。この義光に供すれば、あなたも後日罪人となるのだ。」と、直ちに帰らなさいと、再三にわたって諭すのですが、時秋は一向に聞き入れず、死を覚悟の供を懇願するのです。

時秋、懇願の理由

時秋が執拗に懇願したのは、それなりの理由がありました。時秋の父時元は天下に高名(有名)の室の手でし。豊原家には先祖から伝えられた大調と入調曲という二曲の秘曲がありました。時元がこれらを吹くこと、たくさんの乙女が目的地的を愛して時元の許へ足を向け聞きはれ、囃(うた)もどくからともなく集まって来て曲に合わせ舞うという妙曲でした。だが、時元が臨終の時に子時秋がまだあどけない幼時でありましたので秘曲を授けることが出来なかったため、この芸に秀でていた義光にこの二曲を伝えて置いて死亡したのでした。

時秋が成長して父時元の業の業を継いで名を挙げた時、伝来の大食調と入調曲との秘曲の伝授を受けていないことを悲しみ、常日頃から義光に従って事もなげに振る舞って伝授の機会を待っていたのでした。

だが、義光がこの度奥州に下向することになると、もしや長い別れになるのではなからうか、また秘曲の伝授の機会も失うことになるのではなからうかと歎き思い悩んだ末に、はるばる奥州へ付き従い、時もあらば伝授を受けたいものだとこの心からの懇望であったのでした。

義光もその時秋の懇望の心中をうすうす察したにもかかわらず、従者として奥州へ下ることにはしたのです。

義光、秘曲を伝授す

義光一行は下り下って遂に足柄山に到着してました。現在の神奈川県西部に位置し、南は箱根山に連なっています。この新羅三郎義光の物語や坂田金時(金太郎)の説説でも有名な山です。

義光一行はこの足柄山に夜宿をするにしました。もう弥生(陰暦の三月)になっていました。臘月の夜でした。足柄山の連山はしんと静まりかえっていました。時秋の心中を察した義光は、秘曲伝授の場所をここに選択しての夜宿であったのでした。秘曲の伝授を一言も口に出さずに付き従ってくれば時秋の健気な心意気を見てとった義光は、ここに至って始めて秘曲の伝授を時秋に告げるのです。時秋の目には感激の涙がぐとぐと流れていました。「哀れ承伝の二曲を学ぶことが出来るなら、君の身に死なん命は少しも惜しみませぬ」と時秋の感激の言葉が聞かれます。

相伝には格好の足柄山、時あたかも弥生の臘月夜、春は天下一の笙の笛の名手義光、曲は世に名代の秘曲大食調・入調曲の二曲、聞き手は死を致しての時秋、心耳も澄み肝胆に銘してあります。夜、父時元の自筆の室譜もこの時に時秋に義光から手渡されました。

義光は、なおも死に供にしようといひ振る時秋を、この名曲を絶やさぬように末々まで伝え業務の時秋に託し、漸く説得して時秋を京都に帰すことにします。この名曲は時秋から宇治左衛門に伝えられます。

**あおりマルチメディア
フェア '97開催**

最新のマルチメディア機器や話題のインターネットが体験できる展示会と講演会（講師 江森陽弘氏）が開催されます。

入場はどちらも無料です！
多数のご来場、お待ち申し上げます！

▶開催期間

10月24日（金）～26日（日）

▶開催時間

展示会 10月24日～25日

午前10時～午後6時

10月26日

午前10時～午後5時

講演会 10月24日

午後1時半～午後3時

▶会場

展示会 弘前市民体育館

講演会 弘前中3F「アストロ」

▶問い合わせ先

あおりマルチメディアフェア
'97実行委員会事務局

（青森県庁情報システム課内）

☎0177-22-1111（内線2112）

**10月
リサイクル推進月間です**

【お酒の容器のリサイクル】

国税庁では、廃棄物問題に効果のある手法として、空容器のリターナブル（そのまま再利用）を推奨しています。

年間使用されているビール瓶のうち99%が回収されます。一升瓶も、89%が回収の上再利用されています。

また、ワンウェイ瓶、缶、ペットボトル、紙パック等は、細かく碎かれ再生資源として利用されます。

【容器包装リサイクル法】

廃棄物の減量化と資源の有効利用を図ることを目的として、平成7年6月に「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」が制定されました。

平成9年4月からガラス瓶及びペットボトルについて市町村による分別収集が開始され、事業者による再商品化義務が発生しました。

次のような点に少し気を配るだ

けでリサイクル運動に参加することができます。

- 簡易包装化のものやリターナブル瓶を使用している商品を選ぶ等、廃棄物の排出抑制に努める。
- ガラス瓶、缶、ペットボトル等は、分別して排出し、市町村の分別収集や集団回収等に協力する。
- リサイクル製品を積極的に選択し、リサイクル製品全体の需要拡大に貢献する。

**週40時間労働制が
全面適用されています**

○法定労働時間は、平成9年4月から全面的に、週40時間とされています。

○皆様の職場でも、40時間制の定着に向けた取組みをお願いします（なお、10人未満の商業、保健衛生業及び接客娯楽業などの特別事業場は、週46時間が継続されています。）

○労働基準監督署では、時短相談コーナーを設け、40時間制の定着に係るご相談を承っています。就業規則の改正手続が済んでいない、変形労働時間制を導入したものの運用面で悩んでいる等の事業者の方は、お気軽にご相談下さい。

○その他詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

▶問い合わせ先

五所川原労働基準監督署

▶電話番号

35-2309

**農林水産情報の
お役に立ちます**

農林水産情報センターでは、昨年6月のスタート以来、みなさまからの農業や林業、漁業に関するさまざまな照会にお答えしています。地域の皆様の知りたい行政情報、統計データ等の照会や相談に農林水産情報センターの窓口をお気軽にご利用ください。

▶主なサービスの内容

- 農林水産情報の提供
- 農林水産業に関する照会及び相談
- 農林水産行政の情報提供
- 生産者・消費者等、

- 皆様の意向を行政に活用
- 利用者の要望に沿った統計情報の提供

▶お問合わせ先

農林水産情報センター
五所川原市岩木町12-3

▶電話番号

35-6060

**あなたの人権は
守られていますか？**

この度新たに市浦地区人権擁護委員として梅引岩蔵さん（脇元地区）が委嘱を受けることになりました。

今日でも、昔ながらの因習的な偏見による人権問題が根強く存在するとともに、社会生活や国民意識の変化に伴って新たな人権問題も発生しています。もし、人権問題でお悩みでしたらお気軽に人権擁護委員へ相談してください。



梅引岩蔵さん

▶市浦地区人権擁護委員

奈良 廣悦 (62-2008)

坂 井 精 (62-2441)

梅 引 岩 蔵 (62-2754)

**一定面積以上の土地取引
には届け出が必要です**

国土利用計画法により、10,000㎡以上の土地取引をする場合は、契約を結ぶ6週間前までに届け出をする必要があります。

なお、この届け出制度は、契約の前に価格と利用目的の審査を行うもので、届け出を行わず土地取引をしたり、偽りの届け出をするとなれば罰せられ、税法上の特典がうけられなくなることがあります。

詳しくは、下記のところへお問い合わせください。

▶問い合わせ先

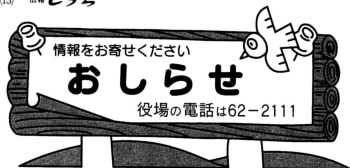
市浦村役場企画財政課

☎62-2111

青森県庁企画部

地域振興課審査班

☎0177-22-1111



10月1日～10月31日までは 高齢者雇用促進月間です

事業主の皆様には、高齢者の雇用の推進に向けての努力が、高齢者等の雇用の安定等に関する法律により義務づけられています。60歳定年の努力義務（高齢者雇用安定法第4条）

事業主は、雇用する労働者の定年の定めをする場合には、該当定年が60歳を下回らないように努めなければなりません。

なお、平成10年4月1日からは、その定年は60歳を下回ることができなくなります。

また、65歳までの継続雇用についてもよろしく願います。

▶問い合わせ先
五所川原公共職業安定所
▶電話番号
0173-34-3171

浅虫水族館が リニューアルされます

浅虫水族館はリニューアル工事のため平成9年11月4日から平成10年4月中旬まで休館の予定です。

平成10年ゴールデンウィークよりリニューアルオープン!!どうぞご期待ください。

▶問い合わせ先
県営浅虫水族館 総務課
▶電話番号
0177-52-3377

秋の行政相談週間

～ 苦情の相談を通じて
国民の声を行政に～

- ◎このようにご相談を
- ◎処理が速い
- ◎苦情を申し出たが、納得できない
- ◎多数の機関が関係している
- ◎どこに相談したらよいかわからない
- ◎役所への手続きや制度について教えてほしい

などの場合にご利用下さい。
たとえば
☆医療保険、年金、老人保健・福祉
☆パートタイム労働、雇用保険、
労災保険 ☆公害 ☆道路路、
住宅 ☆郵便・貯金・簡易保険
☆役所の窓口等の行政サービス
☆災害対策 ☆登記事務
☆交通安全 ☆消費者保護
☆環境衛生など
相談窓口はこちらです

▶市浦村行政相談員
小山 巖 さん
▶電話番号
62-2244

▶行政相談の開設
10月13日 青森あすなろホール
9:00～12:00
10月15日 十三公民館
9:00～12:00

*なお相談は無料で、秘密は厳守されます。

市浦村の人口と世帯数 平成9.9.1現在

大字名	前月人口	人口	世帯数
相内	1,295	1,292	409
桂田	68	67	22
太田	286	286	89
脇元	542	540	197
磯松	302	304	109
十三	796	796	251
計	3,289	3,285	1,077

「建設業退職金共済制度」 をご存じですか?

この制度は、国が昭和39年10月に建設業の労働福祉対策の一環として、中小企業退職金共済法に基づき創設したものであり、その実施運営は、特殊法人建設業・清酒製造業・林業退職金共済組合が当たっています。

この制度の特長は、一般の退職金制度とは異なり建設業界で働く限り、事業所を変えても、事業所に雇用され就労した期間全部を通算して退職金を支払う退職金制度であり、掛金納付は共済契約を結んでいる事業主が、加入労働者の共済手帳に就労日数に応じて証紙(掛金)を貼付、消印することにより行われます。

現在、全国で14万8千建設業者と、207万人の労働者がこの制度に加入し、退職金の積立が行われ、すでに84万人の労働者が退職金を受取り、その額は3,247億円を超えています。

なお、この制度に加入している事業所に対して、労働者住宅等の福祉施設を設置するための融資制度もあります。

▶問い合わせ先
建退共青森県支部
▶電話番号
0177-22-7611

県内の交通事故概況

青森県交通対策協議会			
	8月	累計	死者のうち
発生	770件 (825)	5,268件 (5,360)	
死者	18人 (19)	78人 (87)	高年齢者の死者
傷者	953人 (1,003)	6,410人 (6,485)	飲酒運転による死者
			シートベルト
			着用義務者
			(着けなければならない人)
			非着用者
			(着けていなかった人)
			着けていれば
			助かったと思われる人

()内は前年。累計は1月から。

10月1日

就業構造基本調査が行われますので、調査員が伺いましたらご多用中のところ誠に恐れ入りますが、ご協力くださいますようお願いいたします。

